

第3回（仮称）湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）
アドバイザー委員会 議事要旨

1. 日時

平成29年2月9日（木）14:00～17:00

2. 場所

三次市役所 本館6階604会議室

3. 出席委員（五十音順，敬称略）

植田千佳穂（委員長），杉本好伸，湯本豪一

4. 議事

- ・基本計画（素案）について
- ・展示設計について
- ・施設（建物）設計について
- ・新年度での開館準備作業（事務）について
- ・新年度の講座開催・PR活動等について

5. 議事要旨

- ・上記議事について，事務局より説明後，討議が行われた。
- ・主な意見は以下のとおり。

（基本計画について）

- ・展示事業について，「稲生物怪録」の背景となる三次市の歴史・民俗等の紹介も重要なので，博物館と交流棟がうまく連携していくことが必要である。
- ・入館者数について，市内の他施設の状況等を勘案し，適切な人数を設定すべきである。
- ・入館料について，広島県立歴史民俗資料館が200円と安価なので，これと比較すると高いと感じる。また，他の施設では，高齢者割引制度を適用している例もある。
- ・ミュージアムショップについて，業務委託することが想定されるが，その場合，交流棟（指定管理者）と十分に連携を図る必要がある。
- ・組織体制について，事務部門に営業的な役割を持つ事業を入れておくべきではないか。

（展示設計について）

- ・「稲生物怪録」関連の展示について，「堀田家本」を基にした展示がメインになっているが，「堀田家本」は比較的後期に出てきたものであり，「堀田家本」が

全てではないので、他の「稲生物怪録」関連資料と合わせて展示し、違いを理解してもらえようにする必要がある。

- ・展示設計においては、絵巻をただ映すだけでない仕掛けが必要であるし、初期費用に加え、後々のメンテナンスや展示変更など、ランニングコストにも影響するので、その辺も考慮しながら検討すべきである。

(施設設計について)

- ・特別収蔵庫の出入口について、気密性や利便性の観点から、出入口は1か所とし、収蔵庫から直接出入りができるようにした方がよい。
- ・国の重要文化財の公開承認について、ハードルが高いと思われるが、現時点でできることは、可能な限り対応しておくべきである。
- ・2階への資料の運搬について、エレベーター、階段ともに狭いように感じるので、立体物等の実際の大きさを確認し、対応方法を検討する必要がある。

(開館準備作業について)

- ・作木の収蔵庫が完成するまでに、事前のデータ整理など、できるところから進めておくべきである。

(講座開催・PR活動等について)

- ・開館前のPR活動について、開館後の展示計画等も早めに検討し、開館に向けてPRしていく必要がある。
- ・「稲生物怪録」の読み方について、資料によっては「いのうぶっかいろく」と読むものもあるが、学術的観点からの本件の総称としては「いのうもののけろく」の方が江戸時代に一般化していたと考えられることから、広報等においては「いのうもののけろく」という読み方で統一すべきである。

6. 非公開の理由

(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)の基本計画(素案)については、施設、事業、運営等について作業の途中過程を事務局から説明し、委員にそれぞれの立場から率直な意見をいただいた上で、今後、総合的に再整理して基本計画として取りまとめていくことにしている。そのため、会議を公開することにより不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあることから、非公開にて委員会を開催し、議事概要について公表する。